

KAS

Cotton^{こっとな}Up^{あっぷ}

Vol. 103



熟練された業をご紹介します！
詳しくは 2 ページへ G O ！

目 次

- ・「W・D・S・N 26 (Watage Daily Support News)」
～これぞ！匠の業（わざ）！～ 《2～3 ページ》
- ・ 新任職員紹介 《3 ページ》
- ・ ものとりつくまるちとらつく 《4 ページ》
- ・ 2012 年度事業報告 《5～6 ページ》
- ・ 法人決算報告 《7 ページ》
- ・ 後援会のご案内 《8 ページ》
- ・ ボランティアさん☆大募集中！！ 《8 ページ》
- ・ 編集後記（編集部） 《8 ページ》

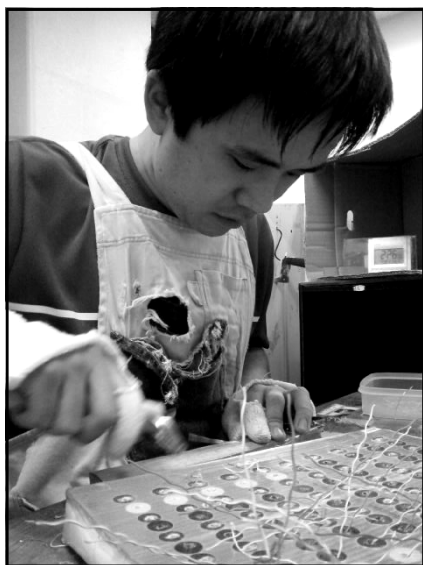
発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会

代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲 2 - 11 - 6 - 109

(毎月1回15日発行) 購読料1部 15円

「W・D・S・N 26(Watage Daily Support News) ～これぞ、匠の業(わざ)！～」

わたげ・ふぁずは、「仕事」「作業」が日中活動の中心です。仕事の内容は、ケーブル解体、釣り具の組み立て、贈答品の箱の中敷き折りなどの受注作業や、掃除やゴミの運搬など様々です。利用者それぞれが、自分の得意なことを活かし、持っている力を十分に発揮して仕事ができるように、日々取り組んでいます。今回は、ケーブルの解体（皮剥き作業）でのエピソードをお伝えします！



ケーブルは、主に家庭用の野菜の皮むき器（ピーラー）を使って皮を剥き、銅線を取り出します。業者から買い取るケーブルの太さや皮の硬さは様々で、時にはシャープペンシルの芯と同じくらいの細いケーブルを剥くこともあります。初めの頃は、苦戦している利用者も多く、職員も「これは手強いな」と思っていました。しかし、回数を重ねると、みなさんの完成品の精度が上がっていききました。作業の様子を見ると、台にしている板の丸みと、ピーラーの刃の角度を上手く合わせて剥いていました。刃の当て方など、細かい手順は伝えていないのに、自分で剥きやすい方法を習得していました。また、しばらく仕事を続けた頃、ピーラーのメンテナンスを行うため、職員が、ある利用者の方のピーラーを新品に交換しました。しかし、仕事を始めると、それまで剥けていたのに、何度、刃を当てても、皮が剥けなくなってしまいました。元のピーラーに戻すと、スルスルと皮が剥け、それまでのリズムカルな仕事の様子に戻りました。ピーラーの刃が、その利用者の剥き方のスタイルにカスタマイズされていたのです。他の方についても、それぞれの道具や机、台にしている板を

よく見ると、人によって削れている箇所に違いがありました。もちろん、使えなくなれば交換しなければなりませんが、自分の手に合った道具を使い、熟練の業で仕事に取り組んでいる姿は、まさに職人です。



ポイントは、板の角で剥くこと！



ピーラー以外にもカッターで皮を剥くこともあります。あらかじめ、ケーブルの長さを揃えてニッパーで切り、皮を剥きます。同じ長さだと保管がしやすく、剥く時のリズム感も保つことができます。しかし、長さを揃えることで、半端なケーブルも出てしまい、中には、1 cm 程度しかないものもあります。「チリも積もれば山となる」ので、このように短くなってしまっても、皮を剥いて銅線を取り出します。短いケーブルを立てて、カッターの刃を上から下にスライ



ドして剥きます。これも職員から伝えたわけでもなく、自ら立てて剥いていました。細いケーブルを剥く時と同様に、非常に細かい仕事ですが、手元を見ながら慎重にカッターを使い、半日で300本を剥く方もいます。まさに匠の業！熟練した業があるからこそ、出来る仕事だと思います。

職員は、利用者が仕事や活動を行う際、持っている力を分析し、それを十分に発揮出来るように工夫し、支援を設定しています。しかし、職員が設定した通りに行うことが終わりではありません。今回のエピソードのように、繰り返し仕事を行う中で、利用者が自分で工夫をし、自分の業として習得していくことが大切なことだと思います。一人ひとりが違った「それぞれの仕事のスタイル」を確立できるように、支援をしていきたいです。新しい仕事にも、どんどんチャレンジして、業の幅が広がるように、これからも期待しています！

指先でつまむと…



わっちー

☆☆新任職員紹介☆☆

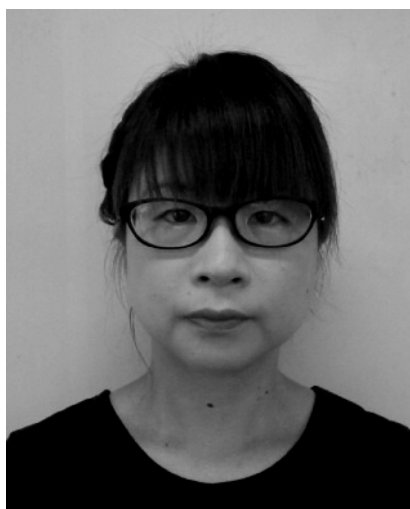
はじめまして。6月より、わたげの非常勤職員で働いている小池恵美です。

家族はアウトドア好きの主人と、ゲーマーの小5の長男、体操大好きな小3の次男、将来の夢はケーキ屋さんの小1の長女の5人です。休みの日は、フラダンスやスクラップブックングを習っています。なかなか上達しませんが…

ジャニーズの嵐が大好きで、子どもが学校に行った後にDVDを観て心を潤しています（笑）

1番下の子が小学校に入ったことをきっかけに12年ぶりに働き始めました。勤務は火、水、金の週3日です。福祉関係の仕事は初めてで、毎日ドキドキしていますが、早く

仕事を覚えて皆さんの役に立てるように頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします！



たんぽぽ・ヨコスカ ものどらっくまるちどらっく No.52

このコーナーでは毎月「横須賀たんぽぽの郷」最新ニュースをトピックスでお伝えして行きます。

篁一誠先生 ケース会議について

4月19日（金）、6月21日（金）篁先生（PDDサポートセンターグリーンフォーレスト）が来所されました。日中のわたげの様子を見ていただき、ケース会議にて、職員からの、日頃の支援に関する様々な質問に対するアドバイスをいただきました。その中のひとつをご紹介します。

季節の変わり目の衣類調整について、家族や支援者が、その日の天候に合わせて提供しているが、感覚は人それぞれ。個々の利用者に合った衣類の提供をしたいが、感覚の違いをどう捉えていけば良いのか。という質問に対し、自閉症の人たちは独特の皮膚感覚を持っている人が多く、1年中同じ衣類を着たがる人が意外に多い。「暑い」「涼しい」といった微妙な言葉は伝わりにくい。例えば、予想最高気温が20度の日は、半袖と長袖から選んで良いですか、25度以上の日は半袖にしましょうということを図式で示すなど、それぞれに分かりやすいガイドラインはあった方が良いのではないかと。半袖を選んで外出したら寒かったので、翌日は自分で調整をし、長袖を着るということが出来るのなら、本人に任せても良いかもしれない。というアドバイスを下さいました。

また、周囲の目や言葉が気になることもあると思うが、家族や支援者は、この人はこの衣類で安定していますという代弁をし、まわりの人の理解をすすめることをしてほしいというお話でした。地域において、その人らしく生活しやすい環境を整えていくことも、支援の重要なひとつであると改めて感じました。

広瀬宏之先生 ケース会議について

7月5日（金）、広瀬先生（横須賀市療育相談センター所長）が来所され、ケース会議を行いました。職員からの主に医療に関する質問にお答えをいただきました。

自分の思いを表現する力を伸ばすことについて質問したところ、まずは言葉以外の伝わった感を味わう機会をまわりが作ってほしいと話されました。具体的には、手を差し出すなどちょっとした手がかりを出してみ、その手に手を重ねるとか、何か物を載せるとか、こちらの意図と違っていても良いので、リアクションしてくれたら「ありがとう」と伝えてみる等。また、いじめられている子が親にそれを訴えた時に、あなたが悪いんでしょうと言われるなど受け付けられなかったら、その子はもう親に訴えようとはしない。自分の思いを表現しても大丈夫なんだと思えるようにしていくことが大切だと思うとお話してくださいました。

その他、薬の作用や服用方法についての質問にお答えをいただいたり、発作への適切な対応方法を、支援中に、利用者が取りうる姿勢を踏まえながら教えていただきました。今後の支援に活かしていきます。

2012 年度事業報告

1. 法人

2012 年度は、前年度 3 月に障害者自立支援法に基づく生活介護事業所への移行を「わたげ」と「ふあず」が実施し、1 年を通して運営するという意味では、最初の年度となりました。また、利用者及び家族のニーズに対応するため、長期的な視点に立ち、長期事業計画に基づき、事業を進めました。

①理事会・評議員会の開催

理事会並びに評議員会は、5 月、11 月、3 月に開催し、年度予算や長期事業計画、規程改定等について、審議致しました。

②長期事業

長期的視点に立ち、利用者及び家族のニーズに対応し、また、法人の理念に基づいた運営を行うため、長期事業計画を作成し、3 年ごとに見直しを行いながら取組みを実施しています。2012 年度は、利用者健康管理推進事業・生活介護事業所拡充事業・人材育成事業を中心に取組みました。利用者健康管理推進事業については、利用者の健康管理は、家族と施設で連携をしながら行わなければ、成果が上がらないものであると考え、特に食事管理は、健康診断の結果から家族に意識を高めていただく必要性がある課題といえます。そのための取り組みとして、2012 年度は、健康管理に資するようにと、3 月に横須賀市保健所の管理栄養士を招いて、家族向けに健康管理の講演を行いました。また、法人内の全ての事業所に A E D の設置を 10 月に完了し、使用方法の職員向け講習も行いました。さらに、地域住民への周知を行うために、屋外掲示板等に、A E D のステッカーを貼って所有していることを知らせています。生活介護事業所拡充事業については、防災という視点から、海辺にある生活介護事業所ふあずの課題を含め、どのような見通しを持ちこの事業を進めていくのかについて話し合いを重ねました。人材育成事業については、法人の人材育成事業のマニュアルを基本教材として、職員会議時に、読み合わせを行いました。災害時対応マニュアル整備事業については、昨年度、防災マニュアルを完成させて長期事業としては終了となりましたが、更に内容を向上させるために、2013 年 4 月の改訂に向け、見直し作業を行いました。

③広報誌『C o t t o n U p』の発行

当法人の活動等について広く知っていただくために、季刊紙として 4・7・10・12 月のそれぞれ 15 日を目処にして、発行いたしました。また、屋外掲示板に掲載し、地域の方々にも見ていただきました。

内容としては、「わたげ・ふあず・こっとなはうす」における利用者の日々の取り組みや活動内容を通し、自閉症を伴う人への支援について発信しました。

2. 生活介護事業

日常的に利用者一人ひとりの状況を評価し、家庭を含めた地域での生活状況を踏まえ、個別支援計画書に基づいて支援を行いました。利用者一人ひとりが、持てる力を発揮しながら、可能な限り自律して活動していくことを大切にする支援を、職員全体として、常に意識しました。日中活動の中心は受注作業を行っていますが、どの作業も、その活動を細かく何工程かに分けて、一人ひとりが1つでも多くの工程に関わる機会を作りながら、力を発揮する機会が増えるように支援することに努めました。利用者の作製する製品の完成度が高く、業者からは高い評価を得ています。新法移行になりましたが、看護師と支援職員の連携も徐々にスムーズに取れるようになり、いろんな視点から、必要な支援ができるように、今後も連携の強化をさらに図る必要があります。また、職員間の連携や情報伝達のあり方は、職員数の増加に伴い、今後さらに向上させていくことが課題といえます。健康管理については、月初めに体重・血圧・体脂肪率の測定を行い、個々の変化を記録しました。また、月ごとの活動報告と合わせて、家庭に測定結果をグラフにして報告し、看護師と連携しながら、健康管理に役立てていただく取り組みを行いました。忘年会として、利用者にアンケートを実施して、好みの料理のコースに分かれて、日中施設外で昼食を楽しみました。

また、実習受け入れとして、養護学校の生徒さんに施設で落ち着いて活動をする体験の場として利用してもらい、実習の成果が今後に活かせるように、学校や家族に、細かく活動の様子をお伝えしています。さらに、大学生のソーシャルワーク実習を受け入れ、福祉の専門職として、いろんな視点から職務について考えを深めてもらえるように配慮して、対応を行いました。

3. ケアホーム

利用者一人ひとりが、お互い安心して生活できるよう、共有部分と個別スペースの環境整備に気を配りながら、支援を行いました。ケアホームということで、共同生活ということが優先されて、利用者が窮屈な思いを感じることがないように、まず個々の生活を大切にするのを優先に考え、できる限り自律した生活を目指した支援を行いました。

個々の利用者は、それぞれに、より豊かな暮らしを目指しながら、ゆったりくつろいだり、買い物や洗濯、調理や自分の部屋の清掃などに取り組みながら、日々生活をされています。また、家族や日中活動の職員と連携を取りながら、日中の眠気等、ケアホームで生活しにくい部分が出てきた際には、過ごし方を調整して、より良く過ごしていただくために、支援を続けています。

また、避難訓練を年間3回実施し、災害に備えました。昨年度も12月にクリスマス会として、ケーキや飲み物を囲んでささやかなパーティーを行っています。

資 金 収 支 計 算 書

(自)平成24年 4月 1日 (至)平成25年 3月31日

勘 定 科 目		予 算	決 算	差 異
経常活動による収入の支	介護保険収入			0
	自立支援費等収入	117,954,000	118,020,970	-66,970
	利用料収入			0
	措置費収入			0
	運営費収入			0
	私的契約利用料収入			0
	補助事業等収入	412,793	412,793	0
	経常経費補助金収入	11,177,500	11,186,295	-8,795
	寄附金収入	631,200	630,200	1,000
	雑収入	4,141,850	4,141,158	692
	借入金利息補助金収入		682,000	0
	受取利息配当金収入	190,398	183,009	7,389
	会計単位間繰入金収入			0
	経理区分間繰入金収入	333,000	330,000	3,000
	経常収入計(1)	135,522,741	135,586,425	-63,684
	人件費支出	82,027,321	82,027,323	-2
	事務費支出	17,782,843	17,772,873	9,970
	事業費支出	9,907,345	9,856,417	50,928
	借入金利息支出	682,000	682,000	0
	経理区分間繰入金支出	333,000	330,000	3,000
経常支出計(2)		110,732,509	110,668,613	63,896
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		24,790,232	24,917,812	-127,580
施設設備等による収入の支	施設整備等補助金収入	730,000	730,000	0
	施設整備等寄附金収入			0
	固定資産売却収入			0
	施設整備等収入計(4)	730,000	730,000	0
財務活動による収入の支	固定資産取得支出	1,650,568	1,650,568	0
	元入金支出			0
	施設整備等支出計(5)	1,650,568	1,650,568	0
	施設整備投資資金収支差額(6)=(4)-(5)	-920,568	-920,568	0
収入の支	借入金収入			0
	投資有価証券売却収入			0
	借入金元金償還補助金収入	4,125,000	4,125,000	0
	積立預金取崩収入			0
	その他の収入			0
	財務収入計(7)	4,125,000	4,125,000	0
	借入金元金償還金支出	5,500,000	5,500,000	0
	投資有価証券取得支出			0
	積立預金積立支出			0
	その他の支出			0
支出の支	流動資産評価減等による資金減少額等			0
	財務支出計(8)	5,500,000	5,500,000	0
	財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-1,375,000	-1,375,000	0
	予備費(10)			0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		22,494,664	22,622,244	-127,580
前期末支払資金残高(12)		134,391,665	134,391,665	0
当期末支払資金残高(11)+(12)		156,886,329	157,013,909	-127,580

事 業 活 動 収 支 計 算 書

(自)平成24年 4月 1日 (至)平成25年 3月31日

勘 定 科 目		本年度決算	前年度決算	増 減
事業活動収入の支出の部	介護保険収入			0
	自立支援費等収入	118,020,970	89,071,692	28,949,278
	利用料収入			0
	措置費収入			0
	運営費収入			0
	私的契約利用料収入			0
	補助事業等収入	412,793	3,959,942	-3,547,149
	経常経費補助金収入	11,186,295	11,968,864	-782,569
	寄附金収入	630,200	666,790	-36,590
	雑収入	4,141,158	3,177,117	964,041
	借入金元金償還補助金収入	4,125,000	4,125,000	0
	引当金戻入			0
	国庫補助金等特別積立金取崩額	6,121,520	6,535,324	-413,804
	事業活動収入計(1)	144,637,936	119,504,729	25,133,207
	人件費支出	82,027,323	70,842,923	11,184,400
	事務費支出	16,540,773	13,821,081	2,719,692
	事業費支出	9,856,417	9,563,613	292,804
	減価償却費	8,875,969	9,129,649	-253,680
	徴収不能額			0
引当金繰入	1,232,100	1,161,400	70,700	
事業活動支出計(2)	118,532,582	104,518,666	14,013,916	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	26,105,354	14,986,063	11,119,291	
事業活動外収入の支出の部	借入金利息補助金収入	682,000	852,500	-170,500
	受取利息配当金収入	183,009	195,660	-12,651
	会計単位間繰入金収入			0
	経理区分間繰入金収入	330,000	303,000	27,000
	投資有価証券売却益(売却収入)			0
	有価証券売却益(売却収入)			0
	事業活動外収入計(4)	1,195,009	1,351,160	-156,151
	借入金利息支出	682,000	852,500	-170,500
	経理区分間繰入金支出	330,000	303,000	27,000
	投資有価証券売却損(売却原価)			0
	有価証券売却損(売却原価)			0
	資産評価損			0
	事業活動外支出計(5)	1,012,000	1,155,500	-143,500
事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)	183,009	195,660	-12,651	
経常収支差額(7)=(3)+(6)	26,288,363	15,181,723	11,106,640	
特別収入の支出の部	施設整備等補助金収入	730,000	12,857,000	-12,127,000
	施設整備等寄附金収入			0
	固定資産売却益(売却収入)			0
	国庫補助金等特別積立金取崩額			0
	特別収入計(8)	730,000	12,857,000	-12,127,000
	基本金組入額			0
	固定資産売却損・処分損(売却原価)		721,332	-721,332
	国庫補助金等特別積立金積立額	730,000	12,857,000	-12,127,000
	特別支出計(9)	730,000	13,578,332	-12,848,332
	特別収支差額(10)=(8)-(9)	0	-721,332	721,332
当期活動収支差額(11)=(7)+(10)	26,288,363	14,460,391	11,827,972	
前期繰越活動収支差額(12)	172,926,009	158,465,618	14,460,391	
当期末繰越活動収支差額(13)=(11)+(12)	199,214,372	172,926,009	26,288,363	
基本金取崩額(14)			0	
基本金組入額(15)			0	
その他の積立金取崩額(16)			0	
その他の積立金積立額(17)			0	
次期繰越活動収支差額(18)=(13)+(14)-(15)+(16)-(17)	199,214,372	172,926,009	26,288,363	

貸 借 対 照 表

平成25年 3月31日現在

資 産 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減
流動資産	163,845,238	152,395,752	11,449,486
現金預金	140,948,430	119,226,819	21,721,611
有価証券	0	0	0
未収金	19,116,929	30,378,671	-11,261,742
貯蔵品	0	0	0
立替金	0	23,400	-23,400
前払金	1,041,254	1,228,527	-187,273
短期貸付金	2,700,000	1,500,000	1,200,000
仮払金	38,625	38,335	290
その他の流動資産	0	0	0
固定資産	262,695,294	268,688,595	-5,993,301
基本財産	190,911,488	196,384,190	-5,472,702
建物	107,232,116	112,704,818	-5,472,702
土地	83,679,372	83,679,372	0
基本財産特定預金	0	0	0
その他の固定資産	71,783,806	72,304,405	-520,599
建物	929,179	1,135,255	-206,076
構築物	2,900,801	3,209,172	-308,371
機械及び装置	0	0	0
車輛運搬具	5,852,992	8,148,065	-2,295,073
器具及び備品	2,398,042	1,329,850	1,068,192
土地	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
電話加入権・水道施設利用権	565,691	577,062	-11,371
投資有価証券	8,000,000	8,000,000	0
長期貸付金	0	0	0
公益事業会計元入金	0	0	0
収益事業会計元入金	0	0	0
人件費積立預金	8,000,000	8,000,000	0
修繕費積立預金	12,000,000	12,000,000	0
車両運搬具積立預金	4,000,000	4,000,000	0
移行時特別積立預金	18,111,371	18,111,371	0
その他の固定資産	9,025,730	7,793,630	1,232,100
資産の部合計	426,540,532	421,084,347	5,456,185

負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減
流動負債	6,831,329	18,004,087	-11,172,758
短期運営資金借入金	2,700,000	1,500,000	1,200,000
未払金	2,811,183	15,347,680	-12,536,497
預り金	1,202,440	1,156,407	46,033
前受金	0	0	0
仮受金	117,706	0	117,706
その他の流動負債	0	0	0
固定負債	25,230,150	29,498,050	-4,267,900
設備資金借入金	16,500,000	22,000,000	-5,500,000
長期運営資金借入金	0	0	0
退職給与引当金	8,730,150	7,498,050	1,232,100
負債の部合計	32,061,479	47,502,137	-15,440,658
純 資 産 の 部			
基本金	41,510,583	41,510,583	0
基本金	41,510,583	41,510,583	0
国庫補助金等特別積立金	111,642,727	117,034,247	-5,391,520
その他の積立金	42,111,371	42,111,371	0
人件費積立金	8,000,000	8,000,000	0
修繕積立金	12,000,000	12,000,000	0
車両運搬具積立金	4,000,000	4,000,000	0
移行時特別積立金	18,111,371	18,111,371	0
次期繰越活動収支差額	199,214,372	172,926,009	26,288,363
次期繰越活動収支差額	199,214,372	172,926,009	26,288,363
(うち当期活動収支差額)	26,288,363	14,460,391	11,827,972
純資産の部合計	394,479,053	373,582,210	20,896,843
負債及び純資産の部合計	426,540,532	421,084,347	5,456,185

